



「慈悲山願興寺」【木版画】  
作 丸山松夫氏 (大積3丁目)

真宗大谷派

# 願興寺だより

第 85 号

2023年 (令和5年)  
1月1日発行

発行 者  
願 興 寺

長岡市関原町1丁目1019  
〒940-2035  
TEL 0258-46-2316  
FAX 0258-46-7499  
<https://gankouji.org/>



謹んで新春のお祝詞を

令和五年元旦



## 巻頭言

### 明治維新の仏教弾圧

願興寺衆徒 太田 修

明治政府の宗教政策は、国学中心の神道家質によって推進された。彼らは今までの神仏習合を否定し、天皇崇拜の神道であった。明治元年（一八六八）に「廃仏毀釈」を発令、寺院破壊、仏像廃棄、僧侶の還俗を各地で行った。

しかし、この仏教弾圧は庶民にとって悪評であった。税金値上げや徴兵よりも自分たちの生活を支える仏教行事を壊される事だった。

浄土真宗は「神祇不拝」（神棚を祀ったり、神社参拝を否定）があり、東本願寺はとりわけ徳川家とのつながりが強く、明治政府のこの方針に否定的であった。さらに西本願寺の島地黙雷は、外遊した結果、政府の神道優先、仏教破壊を批判した。①「国家による神道優先の禁止。②従来仏教の旧弊改革。③宗教の自由が述べられた。

①は明治二十二年の大日本帝国憲法の発令によって廃止され、②③は各宗派によって改革されて近代仏教のあり方が問われた。その改革の先頭走っていたのが浄土真宗の清沢満之、井上円了たちであった。



## 報告

## 永代経法要

十一月十三日(日)、願興寺様の庫裡からみえるドウダンツツジの赤みが目に鮮やかな午前、永代経法要にお参りさせていただきました。



法要の始まる十時少し前、本堂の襖をそっと開けギリギリになったことをお詫びしつつ、遠慮がちに後方の席につ

こうとしましたが、受付の護持会役員の方に勧められるまま、頭ひとつ分でかいのが申し訳ないなと思いつつ、背をかがめて最前列の席につきました。



ご住職の読経が始まりその後、いつものように正信偈を唱和しましたが、私のうしろの席の方がそらんじて唱和されていたのには感銘を受けました。そういえば二年前に亡くなった母も「勤行集」を見ずに正信偈を暗唱してなあと、

母を懐かしく思い出してしまいました。亡き人を思い慈しむこともこの永代経法要の場なのかと一人しみじみ感じ入りながら、ご住職のあとに続き唱和しました。

実は、その十日前(十一月三日)の同時刻、私は妻とともに初めて肩衣を身に着けて京都・東本願寺におりました。亡き父母の遺骨を真宗本廟へ収骨するため、御影堂での法要に参列していたのです。

コロナ感染状況が少し落ち着いていた当日は全国から百名を超す門徒の方が法要に参列されておりました。その目的も収骨、帰敬式、本山永代経など様々であったように思います。私も昨年予定していた収骨法要をあきらめコロナが落ち着いたらと思っていたので、願興寺様よりお取次ぎいただき、ようやくその目的を果たしてきた次第です。

御影堂内陣の親鸞聖人の御真影のもとへお骨が収められた時は、積年の気持ちの区切りが着いたように感じ、法要中しばし在りし日の父母に思いを馳せておりました。



巨谷 学師  
(西山町善了寺住職)

大切な故人を思うことが心の安心につながり、故人を縁として浄土真宗の教えを今の世代、そして次の世代に連綿と繋いでゆく。東本願寺の大きなお堂に身を置き、そしてこのたび願興寺様の永代経法要にお参りして、このことがこの永代経法要の目的のひとつだと再認識いたしました。

(報告 太田伸之氏)

報告

# 秋季彼岸・永代供養墓

## 合同法要

昨年から始まった秋季彼岸・永代供養墓合同法要。今年は九月二十五日に勤められました。先に永代供養墓の前にて法要が勤まり、その後は本堂にて秋季彼岸法要がお勤めされました。



法要の後には昨年同様にミニコンサートが行われ、今回はピアノとフルートの演奏が行われました。このミニコンサートについては関心が高く、案内当初から「ぜひ参加したい」という声も多数いただきました。



いていました。楽曲は馴染みのある曲が多く、当日の気候の穏やかさもあり、とても心地よい時間を過ごすことができました。



報告

# 願興寺秋の旅行 赤倉ホテル有縁講

十一月二十四日～二十五日の日程で赤倉ホテル有縁講に参加してまいりました。今回は十二名の参加でした。

一日目は特製の味噌ラーメンが有名な「食堂ニユーミサ」で昼食をとり、午後一時前に赤倉ホテルに到着。ご法話などの後、各自が部屋に入り、温泉を満喫しました。

午後六時から夕食。食べきれないほどの馳走をいただきながら、カラオケも楽しみました。夕食後にはマジックショーもあり、一日はあつという間にすぎました。



二日目は天気も良かったので、急遽、長野県の小布施まで足を運びました。帰りは米山サービスエリアでお土産の鱈寿司などを買って、家路につきました。



来年もまた皆さんと共に有縁講に参加したいと思います。

(報告 原 律子氏)



### 本堂北面のサッシ 外壁工事について

この度、本堂の北側の老朽化したサッシの取り換え、並びに外壁の修復工事が行われました。以前は建付けも悪く、ガラスも古かったため防寒性もよくありませんでしたが、改善が期待されます。さらに外壁も新たに修復され、景観も良くなりました。工事費用については営繕管理費の予算と積立金の一部を支出しております。



### 参道の松の伐採 について

願興寺に古くからある参道の松の大本木ですが、以前より大風、大雪による倒壊が心配されていきました。また秋になると大量の松葉が境内だけでなく、道路や近隣住宅にも落ちてしまい、管理が難しい状態でありました。そのため、惜しまれつつも本格的に雪が積もる前に伐採されました。



### 第十九期 お経会 案内

真宗門徒のお勤めに欠かせない「正信偈」を読めるようになりたいと思いませんか？

七月から十一月の全十回の日程で正信偈を中心とした練習をしています。ぜひ皆様のご参加お待ちしております。

#### 第十九期お経会 予定

- 第一回 七月十一日(火)
  - 第二回 七月二十五日(火)
  - 第三回 八月八日(火)
  - 第四回 八月二十二日(火)
  - 第五回 九月五日(火)
  - 第六回 九月十九日(火)
  - 第七回 十月三日(火)
  - 第八回 十月十七日(火)
  - 第九回 十月三十一日(火)
  - 第十回 十一月十四日(火)
- ▼隔週火曜(全十回予定)  
▼午後七時三十分～九時  
▼事前申し込み不要  
▼どなたでもご参加いただけます

### 雨虹会 寿恵書道教室 ご案内

願興寺を会場に書道教室を開催させていただきます。ります。

本格的に書道を習いたい方は勿論、祝儀袋などの書きを上手に書けるようになりたい方や新しいことを始めたいとお考えの方など、遠慮なくご参加下さい。初めての方も大歓迎です。

#### 日時

毎週月曜日  
午後二時～午後三時

都合により日程を変更することがあります。参加される方はご確認下さい。

#### 会費

一、〇〇〇円(一回)  
定期的に習いたい方はご相談下さい。

#### 講師

根岸寿恵 先生  
(全日本書芸文化院 雨虹会理事)

#### 会場

願興寺庫裏

# 法話「一ナー」

## 『仏説無量寿経』 について ②

### 《原文》

仏説無量寿経卷下

曹魏天竺三蔵康僧鎧訳す

仏、阿難に告げたまわく、  
「それ衆生ありてかの国に  
生ずれば、みなことごとく  
正定の聚に住す。所以は何  
ん。かの仏国の中には、も  
ろもろの邪聚および不定聚  
なければなり。」

### 《現代語訳》

『仏説無量寿経』 卷下

曹魏の国でインドからきた三蔵法師である康僧鎧により訳された。

仏（お釈迦さま）は、阿難にお告げになった。「どのような衆生も、阿弥陀仏の浄土に生まれたならば、みな仏に成ることが決定する人々の仲間に入る。そのわけは何かといえは、阿弥陀仏の浄土には、間違つた修行をする人びとや、仏に成ることが決定しない人びとは、一人もいないからである」と。」

これまでお話ししてきた部分は「上巻」にあたるわけですから、阿弥陀如来の側のことを説いてあるんですね。その如来がつくられた浄土に我々衆生が往生するわけですが、その往生の原因は何なのか。（衆生往生の因）そしてどうなっていくのか（衆生往生の果）ということが「下巻」で説かれていきます。

### 「正定の聚」

まさしく浄土に往生して仏になることが決定するものがあることを言います。「聚」とは集まりのことですから、「ともがら」という言葉にしました。仲間という意味です。これを「念仏往生の機」と申します。これが「正定の聚に住する人たち」というわけです。これは第十八願「念仏往生の願」によって往生する人々のことであって、つまり

「第十八願」によって往生する人々が「正定の聚」だと言われます。

ただこの場合、「正定聚」にも「彼土正定聚」と「現生正定聚」二つの理解があります。

まず「彼土正定聚」ですから、あちらの国、つまり西方の極楽浄土に生まれて、その後には仏に成ることが決定する。これを「彼土正定聚」というのです。それに対して、我々が生きているこの生涯において、間違いなく仏に成ることが決定する。これを「現生正定聚」と言うんですね。

### 「邪聚」

一方、「邪聚」というのは「正」に対して、「邪」なので、「阿弥陀仏の本願に沿わない自力の定善や散善を修行して、浄土に往生しようとするともがら」をいいます。

### 「不定聚」

もう一つ、「不定聚」とは「浄土への往生は他力回向の念仏によることを知りながら、自力の心で念仏して往生しようとするともがら」をいいます。

「他力回向の念仏」は私が自分の考えで起こす念仏ではなくて、阿弥陀仏が私に代わって称えられた念仏を回向される、私に振り向けられた念仏です。その「他力回向の念仏」は知っているけれども、自力の心で念仏して往生しようとするともがらを「自力念仏の機」と言われます。教えとしては他力念仏の回向だけれども、自分の思いを信頼してしまふ。自分を信用してしまふ、自分のはからいに従つてしまふ。しかし私の思いは揺れ動きまますね。だから「不定」なのです。

古田和弘師講述

『仏説無量寿経』より抜粋

# おくやみ

令和四年七月～令和四年十二月

ご生前のご功労を偲び、

謹んで哀悼の意を表します。

- 七月六日 新潟市  
高木 榮一 九十三歳
- 八月十四日 新組  
丸山 キク 八十六歳
- 八月十八日 豊田町  
佐藤 敏子 八十八歳
- 八月二十日 浦  
荒木 貞 七十九歳
- 九月十日 油田  
丸山 忠信 九十一歳
- 九月十一日 関原一  
荒木 久 七十三歳
- 九月十八日 左近  
荒木 敏夫 八十六歳
- 九月二十日 上除  
長部 慶子 八十五歳
- 九月二十二日 関原南  
佐藤 ヒサ 九十九歳
- 十月十一日 大積千本  
佐藤 春嘉 七十一歳
- 十月十七日 大積高島  
佐藤 昭一 九十二歳
- 十一月二十四日 上除西  
遠藤 とよ子 七十六歳
- 十一月三日 青葉台  
相澤 ムツ 九十六歳
- 十一月十八日 大積三  
丸山 松夫 九十九歳
- 十二月二十一日 大積田代  
丸山 キク子 一〇二歳
- 十二月六日 下河根川  
丹波 貞子 九十二歳
- 十二月七日 大積一  
山田 保弘 七十六歳

## 追悼

## 丸山松夫氏を偲んで

願興寺住職 高橋 深恵

昨年の十一月十八日に、願興寺護持会の会長などを歴任された丸山松夫氏が浄土へ還られました。

山門建立の頃から願興寺の役員としてお手伝いをいただき、早くから「願興寺だより」

の編集を担当されました。紙面の企画やレイアウトなど現在の願興寺だよりの基礎を作られ、文章を書くのが苦手な

方には自らインタビュアーとなつて聞き、原稿をまとめるなど、皆さんに読んでいただくための紙面づくりを心掛けておられました。私が丸山氏

から願興寺だよりの編集を引き継いだ際には、レイアウトや原稿の依頼など、編集の仕事について事細かに教えていただき、丁寧で緻密な仕事に

驚かされました。

護持会会長は二期務められ、寺の行事や聞法会、杉こだちコンサートなど、時の住職の意向をくみ取り、全力で支えて下さいました。

書や彫刻、版画など創作活動にも盛んで、丸山氏が作られた作品が多くお寺に寄贈されています。

願興寺の歴史に欠かすことできない人物の一人でありました。丸山松夫氏のご功績に對して改めて敬意を表します。



丸山松夫氏  
(法名 淨導院釈慈興)

## 2022年下半期 行事報告

2022年7月～2022年12月

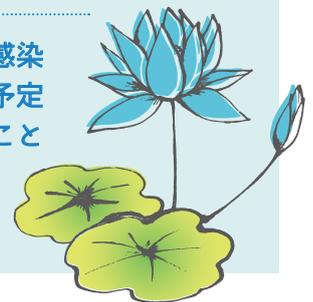
- 7月5日 お経会①
- 6日 総代責役会
- 10日 第3回役員会
- 12日 東京盆参り（～15日）
- 19日 お経会②
- 26日 初めてのヨガ教室
- 27日 盆参 講師 松野秀則 師
- 8月1日 盆参 講師 佐々木恵一郎 師
- 7日 盆参 講師 今泉温資 師
- 9日 お経会③
- 13日 盂蘭盆会（～16日）
- 18日 墓地清掃
- 23日 お経会④
- 31日 初めてのヨガ教室
- 9月6日 お経会⑤
- 20日 お経会⑥
- 21日 初めてのヨガ教室
- 25日 秋季彼岸・永代供養墓合同法要
- 10月4日 お経会⑦
- 11日 初めてのヨガ教室
- 18日 お経会⑧
- 11月9日 お経会⑨
- 13日 永代経法要 講師 巨谷 学 師
- 15日 お経会⑩
- 16日 総代責役会
- 24日 赤倉ホテル有縁講（～25日）
- 30日 初めてのヨガ教室
- 12月11日 第4回役員会
- 21日 初めてのヨガ教室
- 31日 除夜の鐘

## 2023年上半期 行事予定

2023年1月～2023年6月

- 1月1日 修正会
- 2日 年頭法会
- 4日 寺年始
- 18日 初めてのヨガ教室
- 2月2日 前坊守祥月命日
- 3日 前々坊守祥月命日
- 5日 前々住職祥月命日
- 12日 会計監査
- 第1回役員会
- 21日 初めてのヨガ教室
- 3月5日 新旧世話方会議
- 15日 初めてのヨガ教室
- 19日 春季彼岸法要・帰敬式
- 4月初旬 第2回役員会
- 19日 初めてのヨガ教室
- 24日 東本願寺団体参拝（～26日）
- 5月17日 初めてのヨガ教室
- 27日 お取越報恩講
- 歴代防守年忌法要（～28日）
- 29日 前坊守祥月命日
- 6月18日 願興寺お茶会
- 20日 初めてのヨガ教室

新型コロナウイルスの感染  
拡大の状況によっては予定  
を変更させていただくこと  
があります。



告知

願興寺開基六〇〇年・  
親鸞聖人七五〇回御遠忌法要

2024年(令和6年)5月26日(日) 厳修

詳細については随時お知らせいたします。



# お寺の環境整備を一緒にしてくれる方を募集します！



本堂・庫裏・境内など全体を把握し、建物の清掃や木々の管理など業者さんなどの上

手く活用しながら手探りでやってきましたが、きちんと把握できておらず皆さんの方から「危ないから整備してください。」などご指摘いただくこともあります。

二〇二三年より願興寺の環境整備を一緒に取り組んでより美しいお寺づくりに協力してくださるメンバーを募集いたします。皆さんのできる範囲のお手伝いで構いません。また得意分野のある方はぜひ力を貸してください。

(例・障子の張替えが得意、窓ふきが得意など)

現時点では、毎月十六日に指定し始めてみたいと思っています。

報酬等はなく完全にボランティアとなりますが、ぜひ一緒に活動して下さる方お願いいたします。

### 日時

- 毎月十六日
- 午前十時から十一時

### 活動内容

- 境内の清掃、草取り、除雪、本堂や庫裏の清掃など。(それぞれが出る範囲で)

### 予定

- 一月十六日(月)
- 二月十六日(木)
- 三月十六日(日)
- 四月十六日(水)
- 五月十六日(土)
- 六月十六日(火)



## 案内 初めてのヨガ教室

願興寺では毎月一回ヨガ教室を開催しています。初めて参加の方も、そうでない方も皆さんと一緒にできる範囲で楽しめる教室です。冬場になりなかなか体を動かす機会が減ってくる時期かと思えます。ぜひお寺でヨガを初めてみませんか？

### 二〇二三年予定

- 一月十八日(水)
- 二月二十一日(火)
- 三月十五日(水)
- 四月十九日(水)
- 五月十七日(水)
- 六月二十日(火)



## 編集後記

コロナを理由に様々なことが縮小され、それに伴って人と人との関係性もどんどん希薄になってしまった今、どうやったら皆さんとの関係を繋ぐことができるのか、続けていけるのか、考えさせられた一年でした。ありがたいことにそのような状況の中でも、「今年は世話方なのでできる限り行事には参加します」や「このお葬式をご縁に少しお寺に関わってみます」「檀家ではないけどヨガ教室に参加してみたい」など大切なご縁がありました。

行事はもちろんですが、お経会、ヨガ教室、書道教室などさまざまな活動を通して皆さんと一緒に「またお寺に行きたい」と思える様な環境作りをしていく一年としたいです。

編集委員 高橋智美